

長野市立三本柳小学校（特別支援学級）

1：今年度の iPad の活用目標と活用状況

(1)活用目標

- ①ひらがな学習の導入に生かす（書き順）
- ②文章に漢字を使いたいという子どもの意欲を育てる。
- ③子ども同士のコミュニケーションの仲立ちとしての利用

(2)活用状況

- ①1 学期…子どもたちにとって「iPad」が珍しい道具ではなくするため、休み時間に自由に使わせる（学習アプリも遊びとして使わせる）。
- ②2 学期…休み時間の使用に加え、個別の学習の際にも使用。ひらがなの学習には特に、鉛筆を持たせる前にひらがな学習のアプリを使用する。

2：現在活用しているアプリケーション

- ★太鼓の達人+…子どもたち大好きアプリ。拍打ちができない子には純粹にその練習になるし、見ているときの応援の仕方とか邪魔しないとか友達同士のかかわりや、順番を守る等の生活のルール指導にも役立っています。
- ★Smack Talk…まだ2語文くらいの発語のお子さんに使用。自分の話す言葉をかわいいモルモットが繰り返してくれるので楽しそう。でも子どもにありがちな「うんち」「おしっこ」といった言葉をおもしろがって言うので、「反応しない言葉」が設定できるといいのに…と思いました。（外国のものなので無理ですね）今は使っていません。
- ★モジルート・ナズルート…運筆の導入にいいと思いました。「す」「む」でつまづくのを予防するのに有効。また、始点に指を置くと音がするので、筆使用の導入にも使用可能かと考えていますがどうなるでしょうか。
- ★Puzzle Me…最初は無料版をインストール。でも、それでも50枚の絵が入っていて、それぞれに「VERY EASY（6ピース）」「EASY（12ピース）」「NORMAL（24ピース）」「HARD（36ピース）」のレベルがあり、200枚のジグソーパズルが楽しめます。追加で1種類購入しましたが85円と超お得！
- ★にほんご ひらがな…メトロノームのような音や「あ、あ、あかちゃん」などそれに合わせて調子のよい声も入っているので、途中だれることなく練習できます。最初からこれをやると速すぎるので、時間制限のない「ひらがななぞり」等のアプリで練習した次の段階での使用がよいと思いました。
- ★漢字確認君・漢字拡大鏡…ともに度忘れした漢字を書きたいときに使用するらしいアプリ。支援学級の子どもたちは漢字練習をしてもなかなか定着が難しい。でも、「先生、これ漢字で書きたい」という子どももいて、これは作文の時間に役立ちました。学習アプリとして使用するときは欲を言えば、字体は「教科書体」で、手書きパッドが使えて（指でひらがなで入力できるように）、漢字の表示はできるだけ大きく、漢字をタッチしたら書き順が出る、なんてなったら最高！
- ★常用漢字筆順辞典…画面いっぱい大きな文字に、筆順どおりに1画ずつ赤く表示され、書き順の確認に役立った。これも欲を言えば、ひらがなで書いても出るようになれば使える子どもが

ふえる（私ことですが、漢検 1 級を目指している身には、書き順が表示されない漢字の書き順が知りたいのですが…残念）。

★書き取り日本一周…社会で都道府県の学習をした子どもたち。力試しやただのゲームとして利用。一人でやるだけでなく、1 問やったら次の人に渡す形式でも盛り上がります。レベルも漢字で書くもの、パズルで県の形のピースをドラッグしていくものがあり、選べるのがいいと思います。

★さわって生まれる！動くお絵かき・なで猫 オロニヤイン
…休憩時の癒し系アプリ。特に「オロニヤイン」はなでると毛並みはその通りに動くので本気になる感じで、1 年生の子は私と顔を見合わせて思わず笑顔になります。

などなどです。贅沢ですが、iPad とプロジェクターをつなげるコードがあれば、もっと活用したいものがあるのですが…。

他校での様子もぜひ知りたい。でも、5000 円はとうに終わってしまった…。